

地域連携安全・安心事業 防災教育実践報告

能代市立能代東中学校 教諭 高橋 毅

実践事項

- 防災・救命講習会の実施 7月
- 避難訓練 1回目 地震想定 5月
- 2回目 不審者侵入対応 8月
- 3回目 避難所開設訓練 10月
- 4回目 火災想定 1月
- ※緊急地震速報訓練参加：シェイクアウト訓練 11月
- 2年宿泊研修で防災学習館を訪問
- 防災小説づくり（2年生）
- 第1回全国「防災小説」交流会参加：オンライン
- 実践委員会 7月、11月、1月（中止）

防災・救命講習会



能代市防災危機管理室の方から
防災対策についての講話



能代市消防本部の方による
救命講習会：救命入門コース



一次救命措置について説明

班に分かれて実践練習をしている様子



避難訓練 (地震想定)



1年生が机の下にかくれている様子



高台への2次避難をしている様子

避難訓練 (不審者侵入対応)

○職員の動きの確認 と 生徒が不審者と接触しない対策



職員が不審者を確保する様子



生徒との接触を避けるためのバリケード設置



不審者と生徒の接触を避けるため
防火扉をおろしている様子



能代市警察署の方による防犯教室

避難訓練 (避難所開設訓練)



委員会毎に役割分担し避難所を開設



地域の方と発電機の使い方を確認

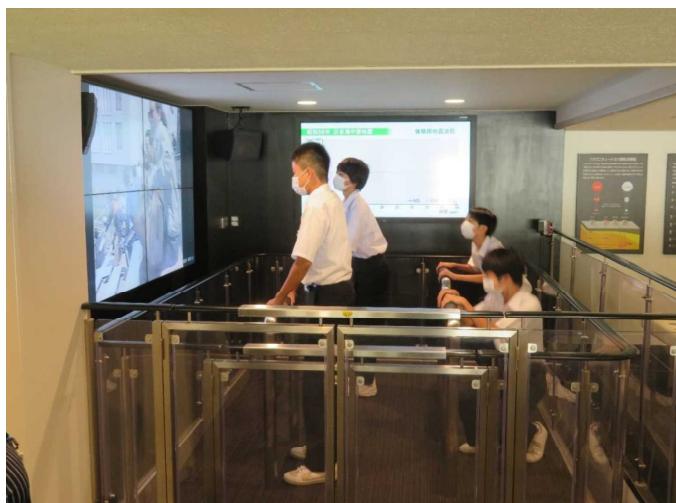


地域住民のによる避難者の受付



非常食の配布ボランティアを行う中学生

2年 宿泊研修（防災学習館にて）



ゆれの大きさにしゃがみ込む生徒



初期消火体験

防災小説とは

まだ起きていない震災について、自分の体験談のように綴る活動です。

具体的には、少し先（およそ1ヶ月後）の特定の日時と天気を学校がひとつ定め、その日に大地震が発生したと想定します。その時自分は何をしているか、家族はどこで何をしているか、自分はどんな気持ちになるか、町の様子はどうか、などを原稿用紙2、3枚に綴ります。「物語は必ず希望をもって終えること」というルールの下で、生徒一人一人が、まだ起きていない未来の地震をもう起きたことかのように、自分が主人公の物語として綴ります。

今回の設定

ねらい：避難訓練や防災対策を自分事と捉え、災害時にどう行動するべきか考えたり、災害に対する備えをしたりしようとする態度を育てる。

内 容： 3月14日（月）13：00頃

「自分はどう行動し、何を感じているか。」

「家族の様子や町の様子はどうなっているか。」

「小説は、ハッピーエンドで終わる。」

学年での防災小説発表会



小グループで自作小説を発表し合う様子

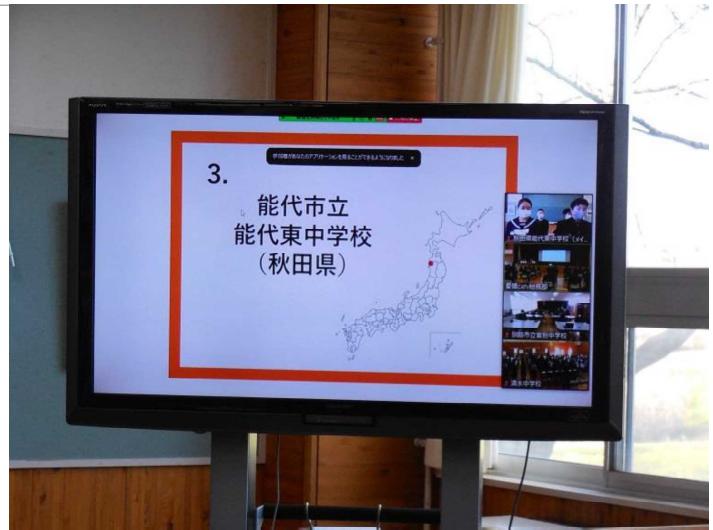


選ばれた代表者が発表している様子

全国防災小説発表会



発表会に臨む代表の4名



オンラインで行われた発表会の様子

防災小説 全校発表

第五小6年生と全校生徒の前で、防災小説を披露しました。



生徒の感想

2年生男子

小説の中で、あんしんライトや災害用伝言ダイヤルという言葉を使いました。また、家族の避難場所をおとも苑にしていますが、これは津波が来たときで、それ以外の時は第五小学校に避難することを家族で確認できました。小説を書いて、具体的に考えたことが、きっと役に立つと思います。

2年生女子

私は命の危険にさらされたことが少ないので想像して小説を書くことが難しかったです。でも、いざ書いてみると、その場の情景が自然に浮かんできてとても面白かったです。非常持ち出し袋やラジオをもって避難するところも自分らしくかけました。書いていて、自分お家の棚は固定されていないことやハザードマップがなく危険ということに気付けました。身边に危険が潜んでいることに気付ける良い機会になりました。

成果と課題

○成果

- ・避難所開設訓練を委員会毎にすることで、年度が替わっても役割を継続していくことができる。
- ・防災小説を書くことで、これまでの避難訓練や防災に対する知識がつながり、日常生活の中で防災や減災について考えるようになった。

▲課題

- ・新型コロナウイルス予防の観点から、岩手で予定していた修学旅行ができなくなったり、1月の火災想定避難訓練が延期となったりした。コロナ禍における計画や実施の仕方を検討する必要がある。